

O04-10

会場:302

時間:5月20日 16:10-16:30

白神山地の恵みに生きる

加藤 和夫^{1*}
KATO, Kazuo^{1*}

¹ 八峰白神ジオパーク推進協議会

秋田県・八峰町東方に広がる約13万haにも及ぶ白神山地は地形が急峻であり、容易に人々は入山できなく、そのため原生的なブナの森が維持されてきた。しかし、1978年このブナの森を開発する目的でいわゆる青秋林道建設計画が持ち上がり、一部工事が始まった。ほぼ時を同じくして建設中止運動が広がり、紆余曲折の末1990年には建設途中で中止となった。

人々は今後とも白神山地の自然環境が維持されるようにと1993年、白神山地の一部16,971haを世界遺産に登録した。その後、旧八森町では遺産地域を中心に据えた地域のあり方を求めて活発な討議が行われ、「森とともに生きる」「白神山地エコツーリズム」「秋田白神自然ふれあい」の3構想は第4次・第5次八峰町総合振興計画に盛り込まれ現在に至る。この総合振興計画の一項目をみると「自然と調和した観光の振興」に地形的資源の文言が含まれているが、地質的資源の文言が欠落しているのである。

自然と調和した人々の営みのあり方を追求していく過程で、どうしても地質的環境を加味する必要があり、ここにジオパークを設定し住民一般の人々が地形・地質について関心を持ってもらうことを目的として、標記テーマ「白神山地の恵みに生きる」を掲げた。

ここの研究フィールドには後期白亜紀から完新世までの地層が見られ、特にグリーンタフ変動期の凄まじい火山活動を思い描くことの出来る材料が豊富にそろっている。そしてこの時期に胚胎した黒鉱、グリーンタフ変動終了後に堆積岩中に胚胎した石油がこの地で発見、稼動された。そこで働く人々が町外から流入し人口が現在の2倍以上に膨らみ、それと同時に持ち込まれた文化で町は活気を呈したという。

以上の地域の環境・歴史をふまえ「八峰白神ジオパーク構想」を組織のもとに活動を開始している。主目的は「郷土愛の醸成に培われた町民による地域発展」であり、「関連団体との連絡調整・宣伝普及」「調査研究」「観光産業」「教育活動への協力」に取り組み始めた。

この狭い地域で、これまで実践してきた活動と今後実践する諸活動計画に沿って取り組む地域住民の姿と地形・地質を含めた自然環境を国内外に発信していきたい。